

平成 31 年度 個別学力検査（後期日程）

情報学群  
知識情報・図書館学類

## 小 論 文

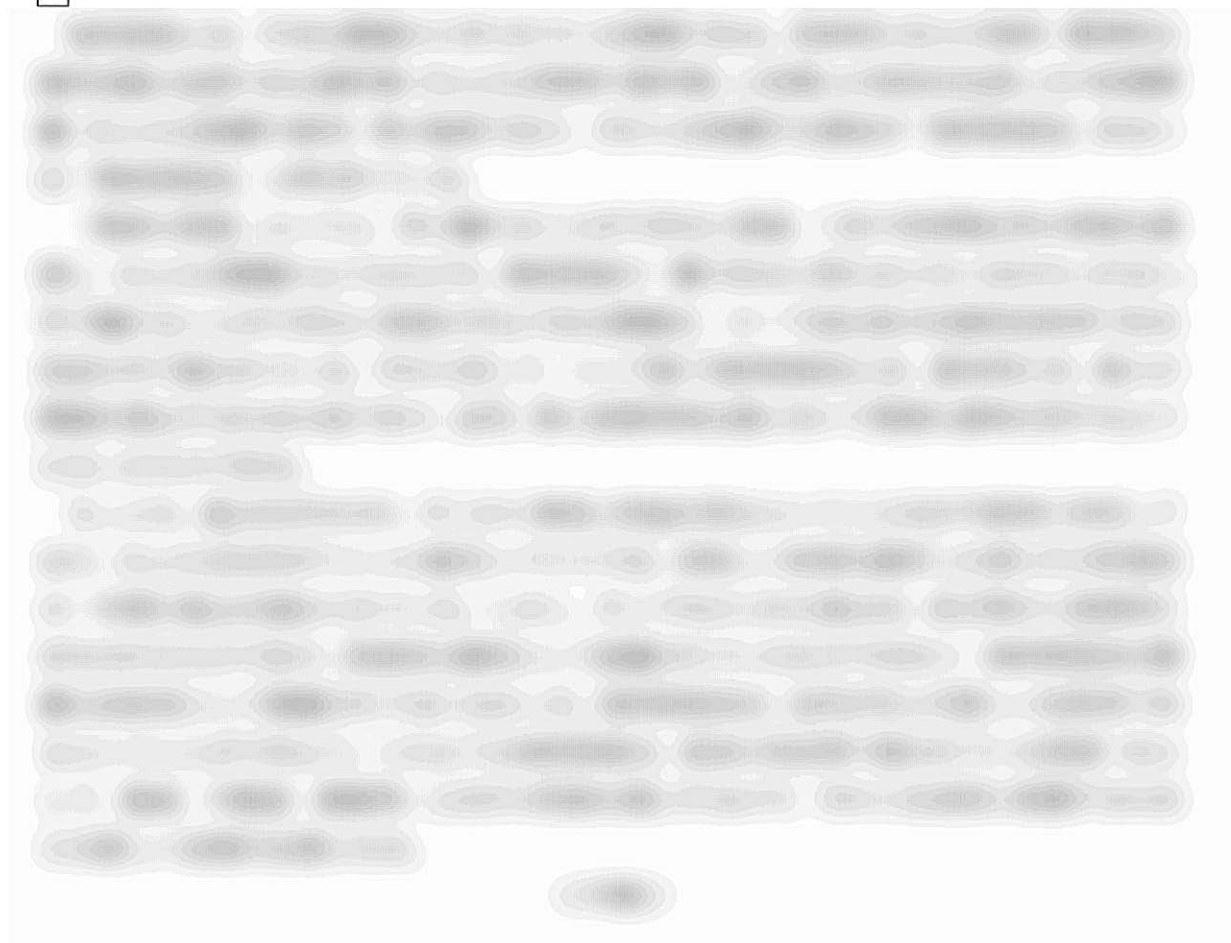
試験時間 10:00 ～ 11:30

### 注 意 事 項

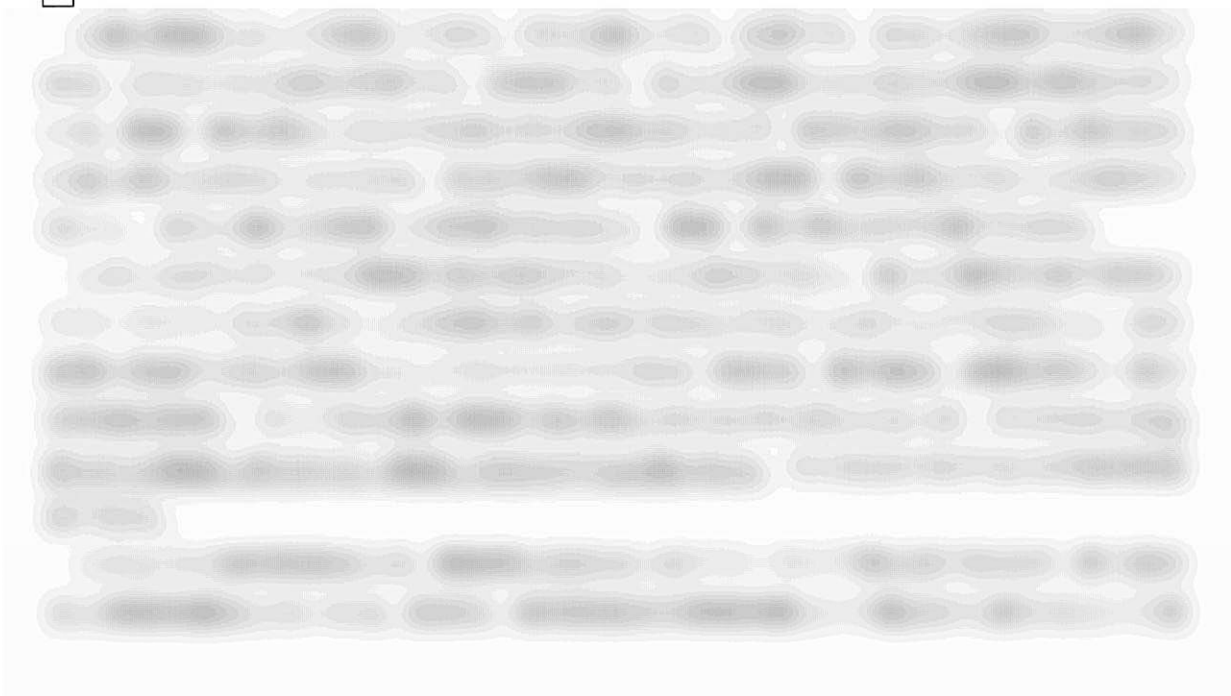
- ・ 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- ・ 受験番号、氏名を解答用紙の所定の欄に記入してください。
- ・ この問題冊子は全部で 3 ページ（表紙を除く）です。
- ・ 解答は、解答用紙の所定の欄に記入してください。
- ・ 試験中に問題の脱落、解答用紙の汚れ等に気づいた場合には、手を上げて監督員に知らせてください。
- ・ 試験終了後、問題冊子・下書き用紙は各自持ち帰ってください。

次の文章を読んで、問 1 から問 4 に答えなさい。

1



2





注

- (a) 化体した：情報という無体物を具体化して形のあるもので表すこと
- (b) 無方式：登録等の特別な方式や要件が不要なこと
- (c) 禁圧する：権力により圧迫し、禁止すること

出典：中山信弘『マルチメディアと著作権』岩波書店，1996年2月9日第2刷，2頁～9頁から抜粋し、一部変更して引用。

問1 この文章は、内容的に2つの部分〔1〕、〔2〕に分かれている。〔1〕の見出しは「知的財産の地位と種類」である。〔2〕の内容に適した見出しを回答欄に記しなさい。

問2 下線①について、なぜ「許される模倣」が必要なのか、その理由を120文字以内で説明しなさい。

問3 下線②について、どのような意味か100文字以内で説明しなさい。

問4 著者は下線③のように述べている。知的財産法が必要となった歴史的経緯を本文の内容に沿ってまとめた上で、現在の社会状況における知的財産法のあり方について、あなたの考えを論じなさい。あわせて500文字以内で書きなさい。

なお、これらの問題は、論理的思考力、表現力、独創性、広い視野からの発想を評価するもので、個人の思想・信条・宗教などを問うものではありません。